

平成20年度 和歌山県文化賞

し みず たつ ぞう
清 水 達 三

住 所：和歌山県和歌山市
出 身 地：和歌山県和歌山市
生 年：昭和11年

学日本画科講師を務めるなど、後進の指導・育成にも尽力するとともに、長年にわたり和歌山県美術展覧会の審査員も務め、本県の文化振興に大きく寄与されている。

◎業績及び経歴

昭和11年和歌山市に生まれ、中学校卒業後日本通信美術学園で学んだ後、日本画家中村貞以氏や長谷川青澄氏に師事する。

昭和38年再興第48回院展において初入選し、昭和40年には日本美術院院友に推挙される。

昭和46年、フランスにおいて研修の機会を得て、絵画の研鑽を積む。

以後も院展に人物画を中心とした作品を精力的に出品。昭和60年第40回春の院展において「浦子回想」で奨励賞、平成3年再興第76回院展において「日蝕」で日本美術院賞・大観賞など受賞歴は多数にのぼる。

平成5年には日本美術院同人に推挙される。この頃より、闘病生活がきっかけとなって、和歌山の自然の中で流れる水に「永遠の命」を感じ、水のある風景を集中的に描き始めた。その作品の数々はふるさとへの深い愛情がにじみ出ていると高い評価を受ける。

その後、平成10年再興第83回院展において「奥瀨」で文部大臣賞、平成13年再興第86回院展では「枯木灘」で内閣総理大臣賞を受賞し、この作品は文化庁の推薦で平成17年5月から11月まで首相官邸に飾られた。

平成20年 有田川の上流の風景を描いた「翠響」で日本芸術院賞とその中で特に選ばれた者に贈られる恩賜賞を併せて受賞した。

我が国を代表する日本画家として、精力的に創作活動に打ち込む一方で、平成6年から平成12年まで和歌山大学教育学部非常勤講師や大阪芸術大

■現在

日本画家
日本美術院・同人・審査員・評議員

■主な表彰歴等

昭和57年 和歌山市文化功労賞
平成元年 第44回春の院展外務大臣賞
平成3年 再興第76回院展日本美術院賞・大観賞
平成6年 和歌山市文化賞
平成10年 再興第83回院展文部大臣賞
平成13年 再興第86回院展内閣総理大臣賞
平成16年 紺綬褒章
平成20年 恩賜賞・日本芸術院賞